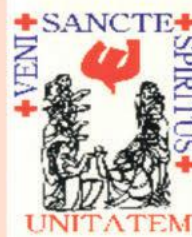


2017年9月3日 (第180号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
苦しみに出会った時には、ほほえみをもって、それを受け取りましょう。これこそ神さまの最大の恵み、つまり、神様が私たちにお与えになること、私たちが求めることになること、手を、ほほえみをもって受け取るということなのです。

韓国 済州島で高松・広島 合同司祭・助祭黙想会

姜萬一大司教が指導

姜萬一(カンウイル)大司教の指導のもと高松・広島教区合同司祭・助祭黙想会が6月19日から4日間、



黙想講話を熱く語る大司教

新生の恵みに出会い「主の復活の大きな喜び」として、教会生活の基盤としての典礼「エウカリスチア」を生きたいのです。

◇2日目 ミサの説教

「隠れたことを見ておられる父」
イエスの生涯の大部分は隠れた生活であった。一介の木工の子としての生活。人々の列に加わりヨハネからの洗礼を受けた後、その風体はごく身近な人物であったであろう。カリヤ湖のほとりで平凡な弟子たちを招くが、彼らも素直な気持ちで従った。

さて、現代の教会は「エウカリスチア」を「ミサ典」が参加。3日間は完全沈黙の中、黙想に専念し、最終日は現地での「平和巡礼」を捧げました。以下、姜司教の講話の要約を紹介させていただきます。

韓国の済州島で行われた。高松教区6人、広島教区が参加。3日間は完全沈黙の中、黙想に専念し、最終日は現地での「平和巡礼」を捧げました。以下、姜司教の講話の要約を紹介させていただきます。

◇第1日 秘跡(エウカリスチア)を生きる

イエスの慈しみに満ちた恵みと救いを表す言葉として「エウカリスチア」があります。初代キリスト者はこの「エウカリスチア」を「主の復活の大きな喜び」として受け止め、教会の霊的生涯の源泉としていたようです。

無関心の中で困難な宣教

韓国南北統一祈り平和巡礼

中世に入り教会の典礼は「聖人崇拜」及び「個人の信心生活」に向けられ、エウカリスチアの意味するところは典礼の中で薄れていったようです。

イエス様の生涯は下へ下へと多くの人々のもとへ降り立ち、生活の現実を分かち合われました。イエスを信じる人々はその十字架の悲しみと死の現実を直面しますが、復活の



韓国軍によるベトナム人への過ちの謝罪碑の前で

説教のみならず、みことばを分かち合い、朗読や典礼聖歌を祈りとして準備しつくす、そんな奉仕が必要とされるでしょう。それにも増して、教会共同体が地道に「エウカリスチア」に生きる心を大切にしたいものです。



「秘跡」の秘跡

◇3日目「婚姻」の秘跡

「神は御自分のかたちを似せて人を創造された。神のかたちを創造し、男と女とに創造された。」(創1:27)
この言葉は人間が単に世界に存在するありさまを述べたものではなく、むしろ人間存在が神との交わりにある存在として述べられたものである。

◇4日目(平和巡礼の日)

姜司教は4日目、「平和巡礼」を呼びかけた。ソウル教区の補佐司教であった姜師は突然、済州(チェジュ)教区司教に任命された。「なぜか」という思いはあったようだが、いま、韓国において平和を祈願するに最もふさわしい地であることを確信した次第を話された。

「福音マーケット」って何?
教区女性の会が説明会
みんなで考え「かたち」模索



KJ法による福音マーケット方法論を学ぶ会員

「女性の視点から教会を考えると、司教からの承認を得て、この四月から「高松教区女性の会」としてスタートしました。この度、その第一歩として、福音マーケットに挑戦することにいたしました。福音マーケットなるもの、そしてみんなで作業を進めていくうちに形が出来上がってきた。説明会から1週間目、雨上がりの祭りに「ヨドリ」がもたらした大きな喜び、あんなに大きかった。説明会から1週間目、雨上がりの祭りに「ヨドリ」がもたらした大きな喜び、あんなに大きかった。

と、この島の6万人を虐殺定した心をもって成長できる時、子供たちは多くの障害にさらされる危険性を抱えている。
結婚とは何か、何のために結婚するのか、結婚の意義とは何か?
何にもまして、私たちは

はばたき
今年も日本の教会は八月六日から十五日までの十日間を平和のために捧げました。
私たちがキリスト者の使命は、戦争で亡くなった方々の救済のため、また、世界平和のために祈り、その誤りを二度と繰り返さないよう、力を尽くすことだと思います。
平和ということばを辞書で引くと、「やすらかにやわらかくこと」「おだやかで変わりのないこと」「戦争がないこと」とあります。
戦争や争い事を避け、心穏やかな中で生活が出来ることと言えるかもしれません。
私の友人には寝たきりの病人や、それに近い重病人や障害者がいて、彼らはいくつ病状が悪化するかわからない瀬戸際に生きています。
その中であって、信仰による平和を求めて本を読み、読めない人は読んでほしい、黙想し祈っています。
彼らに会うたびに、私はその生きざまに感嘆させられ、教えられ、導かれてきました。彼らこそ神に選ばれた「神の民」なのだと思わずにはいられません。
「涙のうちに種まき人は、喜びのうちに刈り取る」。彼らは苦しみという種をまいて、その一つひとつを全て祈り、探し求めたら、光るものに姿をあらわすのを待たずにはいられません。
最後に、司教座の桜町教会のみならず、美味しいおそうめんや、心温まる、協力をお願いしているのです。
その涙は報われ、また種は大きく育ち、いつの日か彼らが天の国に迎えられた後も、周りの人たちに豊かな実りをもたらしてくれることでしょう。

司教の前で初めての説教

ヨゼフ神父のふるさとを訪ねて

① 教区事務局長 西川康廣

そこから少し移動して、これまで広大な敷地内に小神学校があり、敷地内には色んな動物が飼われ、また珍しい種類の植物が育てられていた。

で、赦しの秘跡のために、長い行列を作って順列を待っている光景をとても美しく感じた。彼らの夕食が終わる頃、一緒に交わり、楽しいひと時を持つことも出来た。

司教は神学生幾人かを伴い、私たちの歓迎のために、近くの焼き肉店へ連れて行ってくださった。神学生の中に、私たちが司教に話すと、彼は全く同感だと返事した。さらに彼は、ご自身が統治される南ハノイ教区が抱える課題についても、次のように話してくださった。

「わたしは社会に開かれた教会をつくりたい。この敷地内を解放し、動物園なども設置して、大きな壁に直面している。確かに市民に安らぎを与えることは出来てはいるが、これが直接的なキリストの宣教にまでは繋がっていない。間接的宣教から直接的宣教へ繋げていくにはどうすればいいのか大きな課題だ」と、内心を熱く語ってくださった。

司教は食事しながら私に「あなたはベトナムの北ハノイと南ハノイを訪ねて来たが、教会に関してどのような印象をお持ちですか」と。

その日は中学生位の沢山の男女の若者たちの黙想会が行われていたが、そこには大人たちの姿は全くなく、自分たちの手で生活のすべてを準備していた。その中

中高生らコレジオで修道者目指す



コレジオ担当司祭とハノイのBac Trach教会で

「わたしは社会に開かれた教会をつくりたい。この敷地内を解放し、動物園なども設置して、大きな壁に直面している。確かに市民に安らぎを与えることは出来てはいるが、これが直接的なキリストの宣教にまでは繋がっていない。間接的宣教から直接的宣教へ繋げていくにはどうすればいいのか大きな課題だ」と、内心を熱く語ってくださった。

も言われた。翌日はミサのために4時に起床準備した。ヨゼフ神父は、司教の前での初説教に少し戸惑いを見せながらも、しっかりと説教をする姿はともて凛々しく目に映った。

ミサ後司教とともに朝食を終えて別れを告げ、わたしたちは7年ほど前に司教叙階した一人の司祭の家を訪ねた。

このことを司教に話すと、彼は全く同感だと返事した。さらに彼は、ご自身が統治される南ハノイ教区が抱える課題についても、次のように話してくださった。

「わたしは社会に開かれた教会をつくりたい。この敷地内を解放し、動物園なども設置して、大きな壁に直面している。確かに市民に安らぎを与えることは出来てはいるが、これが直接的なキリストの宣教にまでは繋がっていない。間接的宣教から直接的宣教へ繋げていくにはどうすればいいのか大きな課題だ」と、内心を熱く語ってくださった。

この子らの目は輝き、司祭・修道者を目指したいと、明確な答えが返ってくる。ここでは広い意味での召命を育てる、いわば溝部司教が取り組まれた京都の『望洋庵』のような感じの施設であるともいえる。

ここで私は、幼少の頃に信仰に根差した両親の厳しい躾の体験を思い出した。この子供たちと同じような躾があったからこそ、今の自分があると気づかされたひと時であった。

彼らと一緒に食事をして、一人ひとりの励ましの言葉を掛け、いつか神の御心であれば日本で会おうと約束して別れを惜しんだ。

不屈の信仰讃え野外ミサ

松山で初の教区殉教者祭

苦難耐えた浦上キリシタン



酷暑の中での共同司式ミサ

『浦上四番崩れ』で松山に流され、苦難を耐えて信仰を守りぬぎ殉教した長崎・浦上のキリシタンを讃える高松教区殉教者祭が7月2日(日) 愛媛県松山市衣山の松山教会墓地で行われた。梅雨の最中だったが真夏のような暑さの中で四国四

単な説明があった。松山へ流された浦上キリシタンたちが棄教を迫られ、厳しい説教を受け、牢の苦しみに耐えて教えを守りぬいたが、8人が病死して殉教したこと、解放されたあと徒歩で浦上まで帰ったこと、5歳で流されたことが後に司祭になり、年をとり昭和15年に松山へ来て松山教会の司祭たちの協力もあり、悲願の『長崎キリシタン流説碑』を建立した奇跡のような出来事などについて話した。

敬う人の死は神の前で尊い」と入祭の歌が炎天下の墓地にのどかに響いた。説教では諏訪司教が、現代にも殉教者はいる。経済優先の世の中で私はキリスト者だといっている生きている困難さを語った。

また民族紛争に巻き込まれた一人の若い女性が暴徒から逃れて暮らす恐怖と絶望を語った。

7月30日、小豆島教会で諏訪司教様の司式により、高山右近祭は、典雅に、そして家族的な雰囲気の中で行われました。本年は、列福の初年であり、各地から大勢の信徒が参集してくださいました。マスコトキヤラの『うーこんど

望の中で、ひたすら祈ることによって、傷ついた心が癒されたケースを語った。共同祈願では松山、道後など各教会の代表者が浦上の殉教者に就いて信仰を生きることを祈願した。

『お言葉通りに教会に平和をお与えください』と平和を祈り、最後に『日々キリストに従うものとして喜びのうちに歩み続けることが』

松山での浦上キリシタン 慶応元年(1865年)の「キリスト教の信徒発見」のあと、長崎のキリシタンたちの教会活動が活発になった。当時まだ日本はキリスト教禁教令下であり、その動きに役人たちが目を光らせていた。

慶応3年に起きた、寺に知らせず自分たちで葬儀を行なったキリシタン自葬事件をきっかけに政府の取り締まりが強まり、ついに翌年には「浦上四番崩れ」という大弾圧事件に発展する。浦上村のキリシタン3394人をすべて検挙し、全

京都西行庵の庵主様によって献茶式を挙げて頂きまして、そして、ひと月も満たない赤ちゃんのサトシ君も来てくれました。皆様ありがとうございます。皆様ありがとうございます。

荘重な御ミサの最中、私は次の仕事の準備が頭から離れませんでした。「石近さんは平安を得たのですね」と、という司教様のお言葉が、耳と心に飛び込んで来ました。

京都西行庵の庵主様によって献茶式を挙げて頂きまして、そして、ひと月も満たない赤ちゃんのサトシ君も来てくれました。皆様ありがとうございます。皆様ありがとうございます。

荘重な御ミサの最中、私は次の仕事の準備が頭から離れませんでした。「石近さんは平安を得たのですね」と、という司教様のお言葉が、耳と心に飛び込んで来ました。

父が訪れた。神父は「私は2歳から5歳まで(キリシタンとして) 松山におりました。今は長崎の諫早教会で働いている山口宅助神父です」と話した。

なんと67年前に松山へ流された小さな男の子が立派に司祭になって松山へ帰ってこられたという奇跡のような出来事だった。

このような説教される苦しみ、牢の苦しみに耐えて信じたことが、松山に流されたキリシタンたちの証を残すため記念碑の建立を要請された。当時の松山教会の今はじきマサト神父らが協力し衣山墓地の土地購入を決め、石碑の設計を故マルシャノ神父が担当した。

土地の購入や墓地にする手続きをすべて故田中忠夫先生(愛光学園初代校長)がされた。このように山口神父の悲願であった『長崎キリシタン流説碑』が建立された。

石碑は今も浦上キリシタンたちが苦難のなかで守りぬいた聖なる偉業を伝える。墓地の門横の案内板には碑に刻まれている山口神父がつづったキリシタンたちの切々たる想いが紹介されている。

山口市宅助神父 悲願の流説碑を建立 それから67年後の昭和15年、松山教会へ一人の老神

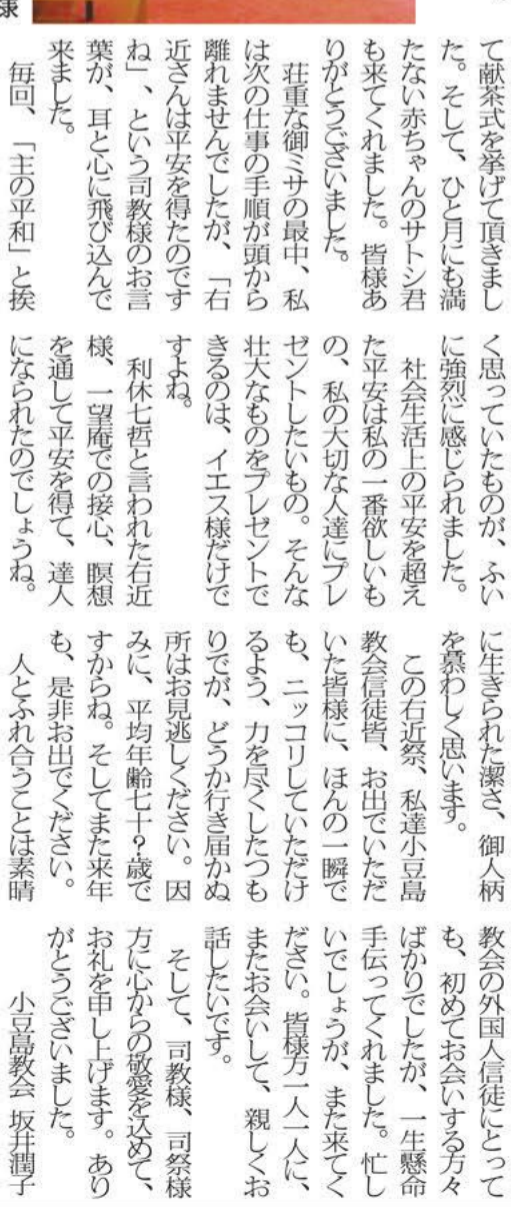
京都西行庵の庵主様によって献茶式を挙げて頂きまして、そして、ひと月も満たない赤ちゃんのサトシ君も来てくれました。皆様ありがとうございます。皆様ありがとうございます。

荘重な御ミサの最中、私は次の仕事の準備が頭から離れませんでした。「石近さんは平安を得たのですね」と、という司教様のお言葉が、耳と心に飛び込んで来ました。

京都の庵主による献茶式

小豆島 優雅に高山右近祭

7月30日、小豆島教会で諏訪司教様の司式により、高山右近祭は、典雅に、そして家族的な雰囲気の中で行われました。本年は、列福の初年であり、各地から大勢の信徒が参集してくださいました。マスコトキヤラの『うーこんど



献茶司式する西行庵主様

教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 9月1日 to 9月29日 with various church events like '教区を考える会', '年間第22主日', etc.

高知 聖書に問い続ける姿学ぶ 松永神父へ感謝の金祝ミサ

7月16日、松永神父の金祝を祝うための、ミサ、そして祝賀会が高知県の全教会合同で開催された。1972〜1996年までこの江戸口教会で司牧してこられた。



高知地区の司祭団と共同司式する松永神父

秋の日曜学校の遠足として続けたため、教会ぐるみの祈りと学びとして続きました。叙階の年の1969年、人類が月面着陸した年、以降50年は世界中が経済成長のための全力投球をした年月だったのでは無いでしょうか。

がクリスト者の生き方。二つのものに任せられない、クリスト者の日々は、当然この豊かさの中で、取捨選択には苦痛が伴ったはずだが「時代が変わった」「今は昔とは違う」との簡単な答えで、抵抗も疑問もなく時代を甘受してきた。

この牧者を見失わなければ、クリスト者として生きられる、という確信を私たちに信徒に贈られた。この祝賀会を計画して下さった地区宣教師司祭評議会へ感謝いたし、病床で出席できなかった方などにも感謝を申し上げます。

江ノ口教会信徒 「全ての事は聖書に問え」

きれいな合唱に感動 サレジオ志願生と交流



コーラスを披露するサレジオ志願生

サレジオ志願院の北川神父様がミサの司式がミサの司式で、楽しく良い思い出になりました。サレジオ志願院の北川神父様と武井アノトニオ神父様、サレジオ志願生の中学生10名が来られ、中学生の交流が行われました。

志願生の方々の聖歌の合唱がありました。とても声がきれいで感動しました。交流会ではみんなでカレッシュを食べたり、クイズ大会をしました。クイズは、6つの班に分かれて問題を解きました。

松山教会 岡田 真理依(中一)

神に必要とされている私 徳島 青年の黙想会に参加して



黙想会参加のメンバーで記念撮影

6月10日と11日の土曜日、日曜日に僕たちは徳島県の吉野川沿いにあるパンカローでの青年の黙想会に参加しました。参加者は10人ほどです。基本に沈黙を保ちながら、分かち合いをしました。自分自身が変われた喜び、分かち合いをわかれ、また座禅をする心で、心を落ち着かせてミサに預かり、何を知ってほしかったのか、風の音を、今振り返ることで新しい気持ちが生まりました。この黙想会はそう思った2日間になりました。

愛媛地区南予ブロック八幡浜教会は、1937年(昭和12)年6月1日の創立から80年となり、11月26日(日)10時、使徒ヨハネ誡訪教区長およびドミニコ会ロザリオの聖母管区長との共同司式による創立80周年記念ミサを行います。

どの問題も私には難しく、全然分かりませんでした。でも、答えは意外と単純だった。予想どおりとまったく違って面白かったです。班の中で自分の意見を出したり、答えを話し合うことで初対面の人も気軽に交流が出来たので、楽しく良い思い出になりました。

自分の仕事の尊さを再認識 高松教区幼稚園教員研修会

第45回カトリック高松教区幼稚園連合会教職員研修会が、7月24・25日の2日間高知で開催されました。「心のセンスを磨く」というテーマで、講師の松浦信行神父の楽しく深い研修ができました。

「二人で散歩ゲーム」では視覚を閉ざした人を言葉を使わずに誘導するという体験をし、お互いに互感を研ぎ澄ませよう、得よう、与えよう、と自然に働きあう感覚が新鮮でした。「価値観の違い」では、松浦神父様の「一人の意見を聞く時がその人の生命の見

この研修会を通して自分自身が、任されている仕事の尊さ、重さ、喜びを再確認し、新たな気持ちで2学期子どもたちとひとりと出会いたいと感じました。高知聖母幼稚園 勝賀瀬 許子

新刊書籍紹介

Book introduction for 'Custodian of the Right of the Holy Spirit' (ユスト高山右近列福式ミサ公式記録集). Includes author info and price.

Small advertisement for a retreat event in Matsuyama.

Advertisement for 'St. Dominic's Missionary Nuns' (聖ドミニコ宣教修道女会) with a photo of a church service.

Advertisement for 'Morning Star Kindergarten' (暁の星学園) with a photo of children playing.

編集後記 日本の気候も年を追ってに熱帯化しているように感じます。9月の声を聞いても炎夏の夏の中にありますが、人が自然を超えて自ら快適さを追求めた結果ともいえるのではないのでしょうか。さて、本年は3年周期での教区民の集い、地区・ブロック単位での年に当たります。司教書簡で取り上げられている「福音マーケット」が目指すところを教区民として十分に理解しながらその準備に当たりたいものです。